



高橋直士, 藤田 權, 山田 空  
チームトリニティ / 東京都立 多摩科学技術高等学校

## キャッチフレーズ

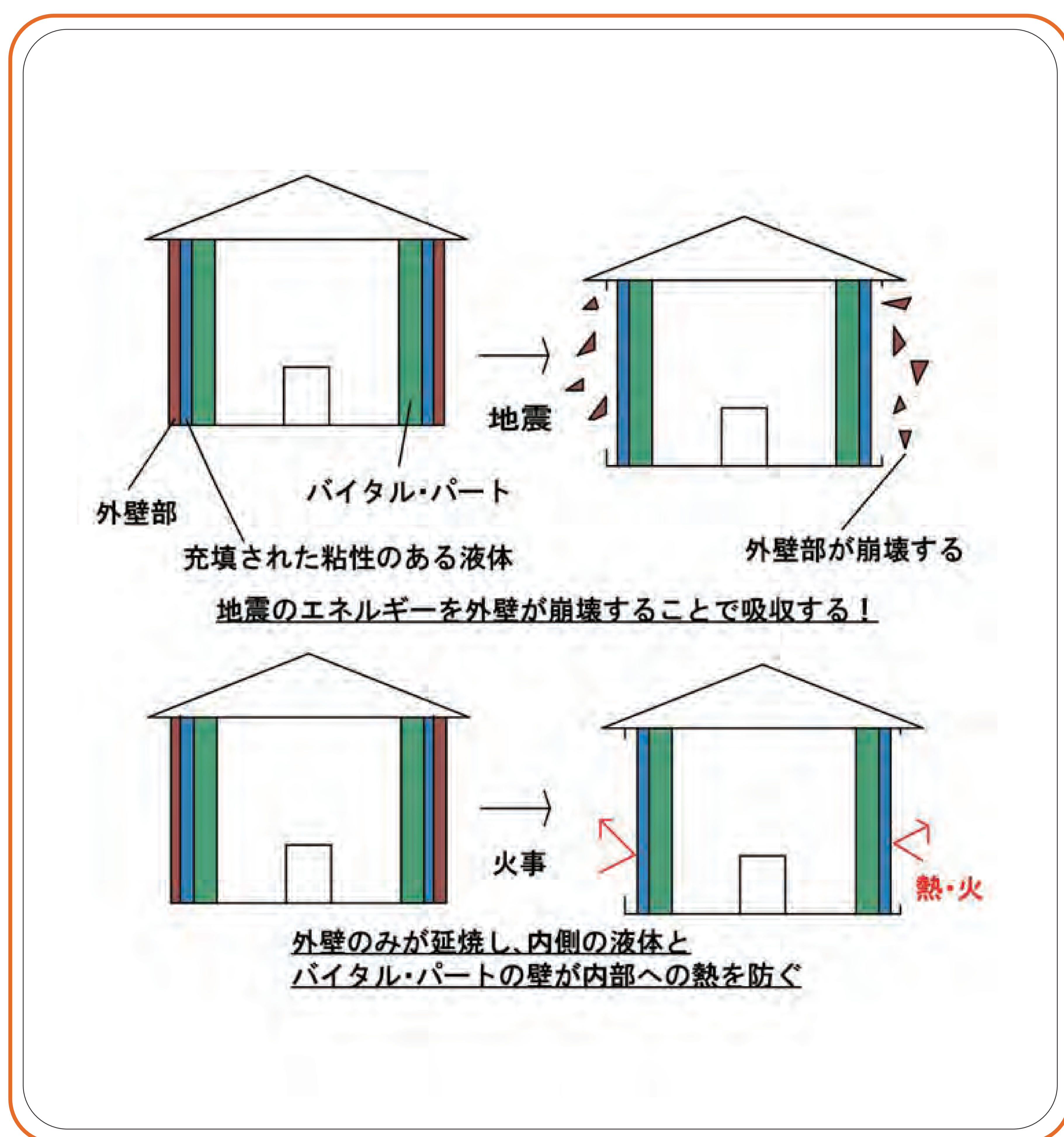
壊れるから、できること。

## アイデアの説明

乗用車において、フロントバンパーなどの事故が発生したときにぶつかりやすい箇所をわざと弱く作ることから考えた。

大地震が発生した時、壁や屋根などの一部が細かく自壊することで衝撃を吸収する建物。

自動車のように人間の居住区（バイタルパートと呼ぶ）を頑丈に制作し内部の人間を守りつつ、壊れても住民の命に関わることのない区域を壊れやすくすることで最大限被害を抑える。



当然、家の周囲から破片が崩れ落ちることとなるが飛散しないように崩れる壁の内部には粘度の高い液体を充填しておく。

これらのシステムによって例え大地震が起ころうとも住人を命の危険から守ることができる。

更に外壁部分を人が出入りする部分を除き非常に燃えやすい物質で作ることで、外壁部のみが燃え、バイタルパートには液体の効果により熱を通さない。